

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2673000184		
法人名	医療法人 総心会		
事業所名	グループホーム長岡京(3階)		
所在地	京都府長岡京市開田4丁目20-21		
自己評価作成日	H30年3月9日	評価結果市町村受理日	平成30年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhvu_detail_2017_022_kani=true&JizyosyoCd=2673000184-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83番地-1 「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	平成30年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者様が笑顔で安心して生活できるように努め、第二の自宅となれるような環境作りに努めている点
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>阪急長岡天神駅やJR長岡京駅からも近距離にあつて静かな住宅地の一角に「グループホーム 長岡京」がある。平成15年に、医療法人 総心会が3ユニットのグループホームとして開設された。近隣には、同一法人の長岡京病院や大型スーパーなどがあり、利便性の高い生活環境にある。医療法人として、医療と介護の密なる連携で、地域に貢献するとともに、職員に「ワーク・ライフ・バランス」の取れた職場を提供することで、質の高いサービスを目指している。居宅介護支援・通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション・訪問看護を併設して、お互いに連携を取りながら運営している。グループホームにおいても「利用者本位」のサービスの提供を実践している。電動介護ベッドや移動用リフト、テーブルを新たに購入されたことは、入居者・職員にとって「安心・安全な支援」に繋がっている。夜勤の体制を3名から4名にされた事も同様である。一人ひとりの「思い」を把握して、その人らしい生活の確保を大切に、個別援助計画の立案が出来ている。また、医療と介護そして家族と協働で「最後の時」を見送っている。働き易い職場に恵まれ、入居者と職員の笑顔あふれる場所がここにあった。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に向けてスタッフそれぞれが認識し実践するために各階で簡単な目標を決め、実践し始めたところ。	医療法人 総心会では「地域が求める医療・介護がいかなるものかを常に考慮し、医療と介護の質の向上を図ることを理念とする」と表明している。事業所としても「職員としてあるべき姿」として3項目の理念を作成している。さらに、各階で目標を掲げ、実践に繋げようと努めているところである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に一回や月に一回のペースで保育園や薬局などとの交流を実践している。	自治会に入会し、回覧板で地域の情報を得たり、行事などの誘いを受けている。近在の相談薬局がボランティアで地域住民対象に歌など楽しいひと時を提供しており、入居者も参加している。保育園の園児との幼老の触れ合いの機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けては機会が少ないがご家族に対しては出来ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	改善すべき課題となる意見は報告しあい、実践につなげている。	会議には、行政の担当職員・地域包括支援センター職員・自治会長・薬局薬剤師・家族などの出席を得ている。事業所からは、法人の総務課長・管理者が出席して、事業所の状況などを報告した後、情報・意見交換を行っている。行事や人員体制・インフルエンザ予防についてなどの意見が出ている。事案に応じてサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて事業所が取り組んでいる。	運営推進会議に行政の担当職員の出席を得て、事業所の状況を把握して貰っている。また、地域包括支援センターとも密に連絡を取り合っている。行政と事業所が双方向で情報交換し、協力関係を確保している。	

京都府 グループホーム長岡京（3階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束の必要性をきちんと議論し必要最低限の拘束を実施。その拘束も今後なくす方向で検討中。	基本的に「身体拘束をしないケアの実践」に取り組んでいる。しかし、入居者の安全確保を優先的に考え、家族などと職員がよく話し合っただけで安全策として人感センサーなどを活用する場合もある。実施した場合は記録を残している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	フロア会議やスタッフ間の連携の中で問題を把握し発生に至らないようにリーダーを中心に見守っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要であれば活用の支援に」向けて話し合い実践している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実践している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	実践している	入居者からの意向は、日常的に会話や行動などから汲み取っている。家族などからは、来所時や運営推進会議などで聞き取る機会にしている。「意見箱」も設置している。各階の入居者との交流の機会についての意見が会議で出されていた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議やフロア会議、または日々の中で職員から出た意見に関して必要ならば反映されていることもある。	日常的には、申し送り時や業務の中で個別援助方法など話し合っている。リーダー会議やフロア会議でも情報・意見交換を行っている。事案に応じて改善に繋げている。今回、介護用ベッドや移動用リフト・安定性のあるテーブルなどを購入された事は、入居者と職員にとって大きな喜びとなっている。	

京都府 グループホーム長岡京（3階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が個々の実績を知る機会はない。法人とスタッフの面会もないため。職員の補充や環境面の改善など一部実践できているところもある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	条件があれば参加の方向で考えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が協議会に参加して交流ができるが職員はあまり交流の機会をつくらせていない。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの情報やご本人の言動などから必要なことを見極めたうえで実践できている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実践できている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実践できている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	概ねの方には実践できている。		

京都府 グループホーム長岡京（3階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	概ね実践されている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	実践できている	友人や知人などは、高齢につれて来所の機会が少なくなっている。家族の迎いで自宅に帰ってくる入居者もあり、職員と近隣のスーパーに買い物に出かけたりもしている。庭で花を育てたり、畑で野菜を栽培しながら、入居者同士で馴染みの関係作りが出来ている。また、近在の薬局のイベントに参加して、地域住民との新しい馴染みが出来ており、新しい関係づくりを大切にしている。花見など季節のお出かけには、馴染みの場所に行って楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	概ね実践できている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要であれば実践する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	実践している	入所希望で見学に来所した際や、契約の面談などの機会に本人や家族などから、生活歴や心身の状況・これからの生活に対する意向などを聞き取って記録している。必要に応じて医療関係者からの情報も得ている。入居後は、日常生活の中で「その人らしさ」を汲み取り情報を膨らませている。	入居者の思いや意向などは丁寧に把握されて、個人ファイルに纏めておられます。しかし、アセスメントや個人情報や医療情報など一纏めになっているファイルが見受けられました。速やかに必要な個所を見出すには厳しいと思われる。それぞれインデックスなどで区分される事で、必要な情報が速やかに見出されて、業務の遂行が円滑になるのではないのでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実践している。		

京都府 グループホーム長岡京（3階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実践できている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	実践できている	介護経過記録によりモニタリングを行い、介護計画を作成している。介護職だけではなく、医療関係者や栄養士・機能訓練指導員などからの情報も得ている。家族などからも意見を聞き取り実情に即した「その人らしさ」を踏まえた介護計画になっている。介護計画の見直しは、定期的或いは心身の変化がみられるときに随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践できている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	実践できている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実践できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	実践できている。	かかりつけ医の選択は、本人・家族の希望を尊重している。入居前のかかりつけ医をそのまま主治医にしている入居者もあり、往診などで健康管理を委ねている。それぞれの主治医と職員が情報交換して連携体制を確かなものになっている。眼科などの受診には基本的に家族などの付き添いになっている。希望に応じて訪問歯科の受診も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時や訪問看護師が来所しているときに実践できている。		

京都府 グループホーム長岡京（3階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	一事案毎に無事に退院出来るよう、関わりの最初の時点で関係が良好に保たれるよう意識し関わっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・主治医・スタッフとカンファレンスを行い方針を共有しながら実践している。	事業所の方針を「重度化した場合における対応に係る指針」として明確に文書化している。「見取り」についても指針の中で示している。家族などには重要事項説明書と共に説明し同意を得ている。法人の理念に挙げられている通り「医療」「介護」の連携を大切にして実践に繋げている。「最後の時」を住み慣れた部屋で、家族などや職員の見守りの中で迎えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練はしておらず発生時の対応や流れなどはそれぞれが把握し実施できている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルあり訓練実施している	火災訓練は、年2回以上実施している。夜間の人員体制を鑑み、法令では3名の所4名体制にしている。有事のみならず、日常的にも職員の夜間勤務の負担を軽減している。備蓄などは、近隣の運営母体である医療法人（病院）で整備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	実践している。	事業所は、パンフレットに「安心とぬくもり あふれる生活を・・・」と表明している通り、一人ひとりを大切に見守っていきたいとしている。細やかな支援を実践している。お正月の箸袋に綺麗な絵柄の色紙で鶴を折り貼り付けて、お祝いの雰囲気盛り上げたりしている。入居者の言動を抑制するような声掛けや言葉遣いに留意している。特に、排泄や入浴の介助時には、プライバシーを損ねたり羞恥心を抱かせない様に心掛けている。	

京都府 グループホーム長岡京（3階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	実践している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間帯によって実践できていることと出来ないこととある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	実践できている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行える方を対象に調理は実践している。食事は入居者と一緒に摂り、会話をすることで雰囲気作りも心がけている。	食事時間が楽しいひと時であるように、野菜の皮むきなど出来る入居者には職員と一緒にに行っている。法人の栄養士のアドバイスを受け、その人に合った食形態を選んで誤嚥予防に努めている。行事食も適宜取り入れて楽しんでいる。ひな祭りに「巻きずし」を手作りして、満面の笑顔の写真が壁面を飾っていた。ケーキなどおやつ作りも楽しみの一つになっている。下膳している入居者もあり、残存機能の維持にも努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて実践できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状況に応じた介助方法で対応している		

京都府 グループホーム長岡京（3階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁が少ない方には布パンツが可能かフロア会議で検討してみたりトイレ誘導のタイミングやサインを見極めて排泄介助をしている、	一日を気持ちよく過ごせるように、出来る限りトイレでの排泄を目指している。一人ひとりの排泄パターンを把握して、適宜声掛けや誘導を行っている。おむつからリハビリパンツに変わった入居者もある。現在、自立している入居者もあり維持できるように見守っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方にはヨーグルトを提供したりしている。便秘だからと言って意識はしていないが常に水分補給や体操への参加を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	9名を順番に入浴していただいているためスタッフの都合の良い時間になっているが一番風呂を好む方には要望に応じることができている。拒否がある方は無理せず日にちを改めて誘いかけている。	入浴が楽しい時になるように、入浴剤を活用している。時には「ゆず湯」や「しょうぶ湯」で季節を感じて貰っている。また、好きな「歌」をうたって、心を癒すことにも心配りをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	実践している。必要に応じて臥床を促したり傾眠状況に合わせて臥床対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更や臨時薬の追加に関しては特に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好む話をしたり好む雑誌を渡したり能力のある方には家事を一緒にするなど日々の中に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望には応じられていないが気候によっては散歩や買い物に出かけたり地域のイベントに参加するなど可能な範囲で外出援助を対応している	日常的な外出の機会は少なくなっているが、気候の良い時は散歩に出かけたり、近くのスーパーに買い物に行くこともある。定期的に薬局で開かれるイベントに参加している入居者もある。季節によって、花見やモミジ見物に出かけている。事業所内にも広い庭があり、外気浴や日光浴を兼ねて気分転換の機会にしている。家族などと外食に出かける入居者もある。	

京都府 グループホーム長岡京（3階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお金の保持はしてもらってはいないがご本人の安心につながるのであればご家族と相談したうえで所持していただく対応を取っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りはあまりないが電話でのやり取りは対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りつけや写真を掲示し行事の様子を紹介したり楽しい雰囲気を作っている。無駄なものを置かないようにフロア内の整理整頓に努めている。	玄関は、落ち着いた佇まいがある。リビングは広くゆったりとした雰囲気がある。大きな窓から明るい陽射しが入り、窓の外には緑の樹々が目や心を癒している。室内にはテーブルを適宜配して、一面には大きなテレビを置きその前には椅子を配して、みんなでテレビを楽しめるように工夫している。反対側の一面にはキッチンがあり、煮炊きの匂いが食欲を刺激している。不快を感じるような臭いや音などはなく、穏やかな表情で過ごしている入居者の姿があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	実践している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	実践しているが好みのものが置かれていない部屋がある。安全な家具の配置にしている。	居室は、その人の思いで家具を配置して住みやすく工夫している。大きな窓から外の風景を楽しむことができ、落ち着ける空間がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に合わせて実践している。家事やドリル、ちぎり絵など。		